

会 議 録

会 議 の 名 称	第6回総合計画審議会	
開 催 日 時	平成27年4月27日（月）14時00分～16時00分	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 4階会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	林 昌彦	
委 氏 員 名	（出席者） 林 昌彦、三渡圭介、玉田恵美、 野村和男、森本都規夫、助光隆男、 牲川桂香、本條 昇、岡本幹生、 岡前佳津子、小林 温、三渡保典、 衣笠萬三、宮元裕祐、春名文子、 春名千代、田口すみ子、川原正文	（欠席者） 藤木 茂、小田奈奈
事 務 局 氏 名	企画総務部：中村部長 企画財政課：名畑次長兼課長、久具山副課長、堀係長、谷本主幹	
傍 聴 人 数	0名	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 小委員会（第2回目）の開催	
会 議 経 過	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
会長	<p>■冒頭より A・B 小委員会の開催</p> <p>■小委員会終了後の全体会</p> <p>今日は、A 小委員会ではインフラというハードに関わるテーマ、B 小委員会では保健・医療・福祉というソフト、サービスに関わるテーマについて議論していただきました。</p> <p>視点としては、まず総合的にどう捉えるかというところがあると思います。A 小委員会のインフラについては、例えば、広く公共施設全体の維持ということを考えないといけないし、そのためのデータをどう整理していくのか、優先順位をどう決めていくのかという問題が非常に重要になってきます。小委員会での議論を聞いていて、なるほどと思ったのは、そういう中で防災の視点も入れる必要があるのではないかとという視点です。また、いわゆる縦割り行政というところで、全市的に将来を見通して、どう横串を刺すかということを考える必要もあります。これはどこの自治体でも課題になっています。</p> <p>B 小委員会のテーマについては、サービスにはどうしても人手が必要で、人口が減っていく中で、どう人材を確保していくのか、市民の皆さんとの協力をどう図っていくのか、それぞれの立場で何ができるのかということをもう一度仕切り直していくということが必要になってこようかと思えます。</p> <p>本日および前回いただいたご意見は、事務局で整理し、皆さんにフィードバックする予定ですが、それをいつお示しできるか、後ほど事務局から予定をお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>最後に、それぞれの小委員会から、簡単に今日の議論の内容を報告していただきたいと思います。</p>
B 小委員会 副委員長	<p>(B 小委員会の概要報告)</p> <p>B 小委員会では、「保健・医療・福祉が連携した安心のまちづくり」について、事務局から一通りの説明を受けた後、それぞれについて意見交換を行いました。</p> <p>医療体制のところでは、主に総合病院についての意見が多く、総合病院は夜間の対応が冷たいと感じるので、愛情を持って対応していただけるような体制をとってほしいとか、医師や看護師の人材の確保や育成などにつなげてほしいという意見がありました。</p> <p>高齢者福祉に関しては、配食サービスの取組みが計画の中に入っていないのはなぜか、食というのは生きていく中で一番大切なことなので入れるべきではないかという意見があり、それに対しては、配食サービスをしな</p>

	<p>いということではなく、計画では優先的に取組んでいく施策の方向性を示すこととしており、「いきいき百歳体操」等の介護予防事業の充実を図りながら、配食サービスも進めていくという回答がありました。</p> <p>ボランティアについて、いろいろなボランティアの方がいらっしゃいますが、ボランティアの方々も高齢者が多いなど、難しい問題が出てきていることから、この先、無償だけで続けていくのは無理があるのではないかと。ボランティアに対し、何らかの支援体制を考えていただきたいという意見がありました。文章の細かい表現についてもいくつか指摘があり、適切な文章に修正するという回答がありました。また、高齢者支援を考える起業等に対する補助金等を考えていただければ、そのような取組みを進める事業者が増えるのではないかとという意見もありました。</p> <p>保険料について、他の自治体では年金から介護保険料や国民健康保険料を引かれない所があるということを知ったが、これはどういうことかという質問があり、扶養の有無や所得、資産などの算定により、天引きされないこともあるという説明を受けました。</p>
<p>A小委員会 副委員長</p>	<p>(A小委員会の概要報告)</p> <p>A小委員会は、今日はインフラについて、生活景観の保全、住環境整備、上下水道の整備、公共交通の充実、道路網の5つの視点から議論しました。</p> <p>結局のところ、どうすれば我々住民が快適に過ごせるか、観光客を宍粟市にどう呼び込むかということに、議論が終始一貫していたように思います。</p> <p>インフラの中には宍粟市だけの施策ではなかなか進まないという問題が多数あり、例えば、道路については国道・県道もあるため、国や県との調整が必要であるということ。また、区画整理の問題については、昭和30年くらいから取組んでいるが、なかなか進まないまま現状に至っているということが浮き彫りにされました。</p> <p>早急な課題としては、道路網の整備が非常に大きな課題としてあがりました。宍粟市は山崎断層を抱えており、災害が起こって南北の交通が寸断された時、東西の交通網が整備されていないと全てが弱いという状態になるので、早急に取組むべき課題ではないかとという意見がありました。</p> <p>その他には、空き家バンクの取組みは生活景観の保全にも関わってくるというように、施策をまたいで重複した課題も多数あること、限られた財源の中でどれを優先していくかというようなこと、それを縦割り行政の中でどう提言していくか、そこでは我々のこの基本施策は非常に大きな役割を担っているというような意見がありました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。最後に、事務局から今後の予定等について説明をお願いします。</p>

事務局	(事務局より会議録についての説明、次回開催日の確認)
副会長	<p>先ほどの会長のお話しの中で、縦割り行政ということをおっしゃいました。私もそのことを随分感じています。というのも、今日の議論が「住み続けたい、住んでみたいまち」という基本目標に合っているかと考えたときに、例えば、B小委員会で医療についての報告がありましたが、医師の数の全国平均が10万人に150人であるのに対し、宍粟市は平均以下であります。A小委員会で議論した道路網の件にしても、東西の道がないままでは災害時の支援・救援は難しいでしょう。そういう状態で、本当に住み良いまちづくりができるのでしょうか。「住み続けたい、住んでみたいまち」の核の部分がまだ議論ができていないように感じます。今後は、その辺のところに横串の観点もあわせながら、幹を重視して枝葉を考えていくという議論ができればと思っています。今度ともぜひよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>